

科目名称:	日本国憲法	
担当者名:	吉岡 利恭	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>第1回で日本国憲法および大日本帝国憲法に対する現時点における認識を確認し、第2回以降、憲法の成立過程・内容を具体的に考察する。憲法は自分たちとは関わりがない、あるいは難しくよく分らないと考えたり、憲法が存在を意識することなく社会生活を送っている場合がほとんどであるように思われる。しかし、憲法は私たちの国の「かたち」を決めるものであり、「きまりの中のきまり」である。本授業においては、条文を丁寧に読み、憲法に関するさまざまな問題について裁判例や映像を通し共に考え、憲法に対する関心・理解を深めることを目的とする。特に第三章の基本的な人権に重点を置く。また、新聞を読むことにより、現実の社会との関わりを確認していきたい。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「憲法が、その国の性格をきめてしまう・・・」といわれます。憲法に定められた条文を読み、その内容が理解できる。さらに、社会状況を踏まえながら現実の社会生活と憲法の関わりを考察できることを目標とする。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)		40	40	20	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
日本国憲法・大日本帝国憲法 の特色・成立過程に関する理 解	両憲法の特徴および成立過程を 相互に関連づけて体系的に理解 し、現在の課題に対して主体的 に考察できる。	両憲法の特徴・成立過程をそれ ぞれ正確に理解し、現在の課題を 指摘することが出来る。	両憲法の特徴・成立過程を理解 しているが、その相互関係およ び現在の課題に関して不十分な ところがある。	両憲法の特徴・成立過程に 対する理解が不十分であ る。
日本国憲法の各章・条文に関 する理解	日本国憲法の各章・各条文の意 味するところを正確に理解し、身近な問 題として主体的に捉え課題解決に取 り組もうとしている。	日本国憲法の各章・各条文の意 味するところを正確に理解し、 現実の社会との関わりを指摘す ることが出来る。	日本国憲法の各章・各条文 の意味するところを正確に 理解している。	日本国憲法の各章・各条文 に対する理解が十分ではな い。
レポート・記録(ファイル)の 作成	学修・視聴した内容を主体的に まとめ、それに基づき確かつ 学修内容以外の観点も含めて多 面的に考察している。	学修・視聴した内容を正確に記 録しており、それに基づいて的 確にテーマとの関連を考察して いる。	学修・視聴した内容を不足なく 記録しているが、考察において 記録との関連性が不十分であ る。	学修・視聴した内容の記録 が不十分であり、テーマに 関する考察も不十分であ る。
プレゼンテーション力(新聞 発表)	新聞記事の内容理解的確で、比較分析も 記事の形式だけでなく主張の違いやその 背景など深く多面的に分析しており、発 声も優れ聞き手にその内容が良く伝わ る。	内容理解・比較分析的に確にな され、よく発声もしっかりして おり聞き手によく伝わる。	内容理解や発声はしっかり しているが、比較分析が表 面的である。	内容理解・比較分析・発声 ともに不十分であり、意図 するところが伝わりにく い。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 日本国憲法・大日本帝国憲法の構成 日本国憲法の構成に関する理解度を、クリッカーを使用して調べる。また、条文構成 を表にすることにより、両憲法の特徴を探る。	(事後学習) 両憲法の条文構成を確認 し、特徴を把握しておく。	30分
第2回 憲法とは何か：日本国憲法の全体像を通して、憲法の 性格を探る。	教科書P34～39を読み、その特徴を確認して おく。新聞第一面のチェックの課題を やっておく。	30分
第3回 明治憲法について 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	配布資料の理解および新聞第一面 チェックの課題をやっておく。	40分
第4回 日本国憲法の成立過程1：配付資料により成立過程の概要を把握 する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	配付資料に目を通し、空欄を確認する。 新聞第一面チェックを やっておく。	40分
第5回 日本国憲法の成立過程2：ビデオを視聴し、成立過程の特徴を把握する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	前回配付資料により、成立過程の概要を まとめておく。新聞第一面 チェックを やっておく。	40分
第6回 憲法前文：前文の現代語訳(意識)をグループワークで行い、発表する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) 確認小テスト	前回までの内容を 確認しておく。憲法前文の重要語 句の意味を調べる。新聞第一面 チェックを やっておく。	40分
第7回 天皇 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	重要語句の意味を調べておく。新聞第一 面 チェックを やっておく。	40分
第8回 戦争の放棄：ビデオを視聴し、レポートを作成する。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	教科書に目を通し、また重要語句の 意味を調べておく。新聞第一面 チェックの課題を やっておく。	40分
第9回 基本的人権(自由権)・確認小テスト 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	前文～前回までの内容を 確認しておく。重要語句の 意味を調べておく。新聞第一面 チェックを やっておく。	40分
第10回 基本的人権(社会権) 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	教科書に目を通し、また重要語句の 意味を調べておく。 新聞第一面 チェックの課題を やっておく。	40分
第11回 基本的人権(参政権・平等権) 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	配布資料に目を通し概要を 理解しておく。新聞第一 面 チェックを やっておく。	40分
第12回 基本的人権(受益権) 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	配布資料に目を通し概要を 理解しておく。新聞第一 面 チェックを やっておく。	40分
第13回 国会・内閣・司法、地方自治 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション)	教科書に目を通し、また重要語句の 意味を調べておく。新聞第一 面 チェックの課題を やっておく。	40分
第14回 子どもの人権1：憲法条文との関わりをグループワークで調べる。 新聞第1面チェックの発表(プレゼンテーション) 確認小テスト	憲法条文に目を通し、子どもの 人権に関する部分を把握 しておく。 基本的人権～前回までの内容を 確認しておく。	40分
第15回 子どもの人権2：子どもの権利条約および国内法との関係	配布資料に目を通し、重要語句の 意味を 調べておく。	40分

準備学習時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
準備学習としては、重要語句の意味調べや概要把握、新聞第1面チェック等を指定用紙に記入しファイルしておくこととなる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト40% 授業レポート20%、新聞課題20%、授業への積極的関与(ファイル作成など)20%で評価する。

課題に対するフィードバック

小テストは採点后解説する。授業レポート・ファイルは評価して返却。新聞課題はルーブリックで評価。

教科書・参考書

井上ひさし『子どもにつたえる日本国憲法』(講談社)
事前事後学修および授業内で参照する。その他、授業の中で判例等の資料を適宜配付し、参考書についても示す。